

## 命伝えるヒマワリの輪、あいりちゃんの種10校に...広島

広島市安芸区で2005年11月、下校中に殺害された市立矢野西小1年木下あいりちゃん(当時7歳)が大切にしていたヒマワリの種を、同市内の10小学校が受け継いで育てることになった。父親の建一さん(42)は「大事にしていたヒマワリが、各小学校で咲くのを、あいりも天国で楽しみにしているでしょう」と話している。

あいりちゃんは幼稚園の頃、ヒマワリを育てており、矢野西小が建一さんから種を譲り受けた。昨年、1年生が「しあわせのひまわり」と名づけて中庭で育て、夏には大きな花が咲いた。事件のあった11月22日には、子どもたちが描いたヒマワリの絵を体育館に飾った。

「命の大切さを伝えよう」と、同市教委は、このヒマワリからとれた約3600粒の種のうち、200粒を希望する10小学校に配布。各校では今年秋、種を集めて別の学校に配り、活動の輪を広げていくという。

矢野西小の保手濱和益校長は「子どもたちが安全に暮らせるようにとの願いと、ヒマワリと一緒に広がってほしい」と話している。

(2009年5月5日 読売新聞)



あいりちゃんのヒマワリの種を手にする保手濱校長(広島市安芸区の市立矢野西小で)